

2019年度 高知県ラグビーフットボール協会 普及推進事業 『タグラグビー出前授業（幼稚園・保育園）』実施要領

1. はじめに

- 1) タグラグビーとは、ラグビーと同等のルールではあるが、タックルなどの身体の接触が少ない安全なボールゲームです。また、ゴールなどの特別大型な器具を必要とせず、コートของ広さやプレーヤー数にアレンジを加えやすく、ボールとタグさえあれば子どもから大人まで誰もが手軽に楽しむことのできる競技です。
- 2) タグラグビーではボールを持ったまま走ることができ、その延長として広いゴールゾーンのどこでもよいので走り込めば得点できるなど、他のボールゲームに比べてやさしい面が多いので、運動の苦手な子でも活躍できます。
- 3) タグラグビーにおいて、攻めではボールを持って走り、守りでも相手を追いかけて走るので豊富な運動量があることはもちろん、様々な方向へスピードを変えながら走り回ること、敏捷性やバランス感覚も自然に養われていきます。
- 4) タグラグビーは、教育指導効果も認められ平成20年4月1日から施行された小学校学習指導要領解説書（体育編）に例示されました。これを受けて高知県ラグビー協会ではこれまでも小学校での『タグラグビー出前授業』などタグラグビー普及に取り組んできましたが、さらに幼児期での体力向上や集団づくりの一助となるよう、タグラグビーの普及活動として『幼稚園・保育園へのタグラグビー出前授業』に取り組めます。タグラグビーを通じて楯円のボールに触れる機会を提供し、ラグビーという競技に興味を持ってもらうきっかけにすることを目的のひとつとします。

2. タグラグビーの良さ

- 1) 低年齢期の遊戯経験から発展させやすい運動
 - ・鬼遊び（鬼ごっこ）と深い関連性を持つ
 - ・低年齢期の鬼遊びから自然に学習を発展させやすいボールゲームである
- 2) 今持っている力で楽しむやさしい学習を導きやすい運動
 - ・後ろにパスされるので、どの子もボールを手にする機会を持ちやすい
 - ・ゲームに参加するために必要な個人的技術が、ボールを持って走るだけなのでやさしい
 - ・得点の仕方もやさしく、運動が苦手な子も含めてどの子も得点できる可能性が高い
 - ・タグを使うことで、攻守の動きがはっきりとしていて子どもに分かりやすい

- 3) ゲームへの参加から豊富な運動量をもたらされる運動
 - ・ゲームへの参加が自然に促され、豊富な運動量をもたらされる
 - ・多様な動きにより、敏捷性やバランス感覚が自然に養われる
 - ・基本的に少人数（4～5人）で行うのでボールを触る機会も運動量も増えると同時に、作戦タイムなど話し合うことでの成長も期待できる

- 4) 個人差や男女差が顕在化しにくい運動
 - ・多くの子どもにとって初めて出会う運動種目であり、スタートがみんな一緒
 - ・運動が苦手な子も参加しやすいやさしいゲームなので、個人差や男女差が顕在化しにくい
 - ・男の子と女の子、また大人と子どもでも一緒に楽しめるので、様々な場で活用できる

3. 講師について

- 1) 高知県ラグビーフットボール協会より講師を派遣します。
- 2) 教諭を対象とした講習会も、要望があれば随時実施します。

4. 実施期間

2019年5月13日～2020年3月31日

5. 実施時間

- 1) 年齢にもよりますが1回の出前授業の目安として、45分授業で1～3コマ。
- 2) 単元として行う場合は、合計で5～8コマ程度いただきたいです。
- 3) 保護者参加の行事等で運用も可能です。
- 4) 上記1)、2)、3)ともに相談に応じます。

6. 場所について

県内各幼稚園・保育園（運動場、体育館どちらでもOK）

7. 過去の実践例

- 1) 高知市百石町 ふくし園（年中組26名・年長組30名）のケース
 - ・年中組、年長組にて45分授業で出前授業を実施（当初3回ずつの予定も天候不順のため2回ずつの実施に）。

- ・内容としては以下の3点を重視してメニューを構成
 - ① 楕円球の特性を活用《不規則な動きに反応して対応する》
 - ② 集団競技としての“鬼ごっこ”
 - 《作戦立案→共有して実施、リーダーシップの発現》
 - ③ ボールを持って走り相手を抜いてトライする（または阻止する）
 - ラグビー的動き《ランニングスキルの発揮、パス交換、タイミング等》

2) 高知市立一宮東小学校4年生（男子28名・女子29名）のケース

- ・11月下旬から1月中旬まで、2クラスに各4回ずつの出前授業を実施。
- ・1月下旬に学年行事として学校グラウンドにてタグラグビー大会を実施。保護者33名も出場。チームは児童・保護者混合で編成。トーナメント形式で行うも、各チーム複数回ゲームができるように工夫。

3) 香南市立佐古小学校4年生（男子36名・女子26名）のケース

- ・11月上旬の平日午後より、学年行事としてタグラグビー大会を実施。会場は野市青少年センターのサッカーグラウンドをお借りして使用。保護者60名が出席。児童・保護者混合でチーム編成。トーナメント形式で行うも、各チーム複数回ゲームができるように工夫。

4) 高知市立大津小学校3年生（男子52名・女子52名）のケース

- ・1月末から3月初旬まで、3クラスに各6回ずつの出前授業を実施。

5) 土佐清水市立下川口小学校のケース

- ・1～6年生までの全校生徒（男子17名・女子9名）に対して、2コマの出前授業を実施。基本的な練習を1コマ、ゲームを中心に1コマ。

1) のふくし園のケースは2～3月の実施だったので、特に年長組さんでは小学校進学を前にパス交換や作戦立案→共有して実施といった集団競技に取り組む機会として取り上げていただけました。

2) の一宮東小学校のケースも含め、小学生であれば複数回授業で取り組めば、ゲームの中でかなりハイレベルなプレーが展開されるようになります。また、3) の佐古小学校のケースのように単発の行事であっても、保護者が多数参加していただくと初めてでも非常に盛り上がります。幼稚園・保育園でも盛り上がり期待できます。

4) の大津小学校のケースは、1クラスに対して最もたくさんの授業を行えました。段階的な指導が可能となり、クラス内での友達関係なども含めて生徒の様子も把握できたので、準備や片づけも含めてきめ細かくハイレベルな授業が展開できました。

5) の下川口小学校のケースのように、一学年の人数が少ない場合にでも他学年との合同で実施可能です。保護者参加のケースも含めて、異年齢集団であっても運動能力の違いにあまり左右されずに楽しめるのがタグラグビーの特徴です。

8. その他

- 1) 講師料や用具代などの費用はかかりません。
- 2) 本事業において発生した怪我等においては、各幼稚園・保育園での対応をお願いいたします。